

道徳性の発達に関する研究 (2)

佐藤 公代

(教育心理学教室)

(平成12年6月1日受理)

Study on the Moral Development (2)

Kimiyo SATOU

(問題と目的)

佐藤 (1999) の「文章の違いによる大学生の道徳判断について」の研究から、「同じ事件でも文章の違いによって印象は変わり、その本人に対する道徳判断も多少なりとも違ってくる。明らかに罪であることに対して、価値観の違いによって、道徳判断がなされていく。」ことが検討された。今回は、コールバークの発達段階と文章の違いによる大学生の道徳判断との関連でみていく。

ちなみに、コールバークの発達段階については、佐藤 (1999) の中で紹介してあるので省略する。

仮説は次の通りである。

- (1) 「ねつ造事件」も「窃盗事件」も「悪い印象を受ける記事を読む群」の方が、「それほど悪くない印象を受ける記事を読む群」よりも「自由再生量が多く」、「理解度において悪い結果を予測し」、「犯人の印象は悪く、同情は少ない」だろう。
- (2) ねつ造よりも窃盗の犯人に対しての道徳判断は、厳しいだろう。
- (3) 青年期 (大学生) は、コールバークの発達段階において、4段階に属する人がもっとも多いであろう。また、「ねつ造事件の悪い印象を受ける記事を読む群」(1群)と「窃盗事件の悪い印象を受ける記事を読む群」(3群)の方が、「ねつ造事件のそれほど悪くない印象を受ける記事を読む群」(2群)と「窃盗事件のそれほど悪くない印象を受ける記事を読む群」(4群)よりも4段階に属する人が多いであろう。

(方 法)

- 1) 実験期日：1999年6月8, 10, 15, 17日

- 2) 被験者：E 大学 1 - 4 回生, 505名 (1 群：127名, 2 群：126名, 3 群：126名, 4 群：126名)。
- 3) 材料：ねつ造事件の新聞記事と窃盗事件の新聞記事。両方とも文体の違いや字数の違いよりも内容の違いの方に注目して比較する。
- 4) 条件
 - 1 群：ねつ造事件の悪い印象を受ける記事を読む群
 - 2 群：ねつ造事件のそれほど悪くない印象を受ける記事を読む群
 - 3 群：窃盗事件の悪い印象を受ける記事を読む群
 - 4 群：窃盗事件のそれほど悪くない印象を受ける記事を読む群
- 5) 手続き：「薬屋の課題」を用いて、コールバークの発達段階に区分して、クロス集計をする。無作為に 4 群に分け、記事を読んでもらう。読み終えたら回収する。次に質問紙を配布し、各質問に答えてもらう。
- 6) 結果の処理方法
 - 1) 自由再生：詳細に書かれたものを 3 点, 大体書かれたものを 2 点, 1 行位で単純に書かれたものを 1 点とする。
 - 2) 理解度 (判断)：ねつ造事件に関しては、犯人の印象, 心情について, 各項目から選択する。窃盗事件に関しては、犯人の心情, 事件後の予想, 自分ならどうするかについて, 各項目から選択する。
 - 3) 犯人の印象：9 つの形容詞を「5：よくはてはまる」-「1：まったくあてはまらない」の 5 件法で回答する。

(結果と考察)

Table 1 に各群における自由再生量の人数 (人) と % を示す。

Table 1 各群における自由再生量の人数 (人) と %

自由再生量	1 点				2 点				3 点			
	人数		%		人数		%		人数		%	
	全体	男子 女子	全体	男子 女子	全体	男子 女子	全体	男子 女子	全体	男子 女子	全体	男子 女子
1 群	23	17	18.1	13.4	51	23	40.2	18.1	53	18	41.7	14.2
		6		4.7		28		22.1		35		27.5
2 群	20	11	15.9	8.7	42	22	33.3	17.4	64	20	50.8	15.9
		9		7.2		20		15.9		44		34.9
3 群	22	16	17.5	12.7	54	21	42.8	16.6	50	16	39.7	12.7
		6		4.8		33		26.2		34		27.0
4 群	23	18	18.3	14.3	62	36	49.2	28.6	41	12	32.5	9.5
		5		4.0		26		20.6		29		23.0

Table 1 から, 1 群と 2 群, 3 群と 4 群との比較において, 有意差はみられないものの, 高い点数をとった方は 2 群, 3 群の方である。よって, 仮説 (1) は支持されない。これは, 佐

Table 2 (1) 各群における理解項目（理解1）ごとの人数（人）と%

理解1	1				2				3				4				5			
	人数		%		人数		%		人数		%		人数		%		人数		%	
	全体	男子 女子	全体	男子 女子	全体	男子 女子	全体	男子 女子	全体	男子 女子	全体	男子 女子	全体	男子 女子	全体	男子 女子	全体	男子 女子	全体	男子 女子
1群	60	32	47.2	25.2	66	25	52.0	19.7	1	0.8	0.8	/	/	/	/	/	/	/	/	/
		28		22.0		41		32.3			0									
2群	58	28	46.0	22.2	68	25	54.0	19.9	0	0	0	/	/	/	/	/	/	/	/	/
		30		23.8		43		34.1			0									
3群	69	20	54.8	15.9	53	31	42.0	24.6	2	1.6	0.8	1	1	0.8	0.8	1	0	0.8	0	0
		49		38.9		22		17.4			1									
4群	66	29	52.4	23.0	45	29	35.7	23.0	11	8.7	5.5	2	1	1.6	0.8	2	0	1.6	0	0
		37		29.4		16		12.7			4									

1, 2群において 1……思う 2……思わない 3……その他
 3, 4群において 1……懲戒免職にした 2……何カ月かの休職にした 3……言葉で嚴重注意した
 4……同情して元気づけた 5……その他

藤（1999）の「道徳性の発達に関する研究（1）」と同様に、「2群の記事が新聞記事のようにかたい文章ではなく、コラムニストが書くような面白おかしく書いたものなので、被験者にとって印象に残りやすかったのであろう。」

Table 2 (1) に各群における理解項目（理解1）ごとの人数（人）と%を示す。

Table 2 (1) から、「ねつ造事件」の理解1「犯人は悪い人だと思うか」において、有意差はみられないものの、1群より2群の方が、1：「思う」よりも2：「思わない」、の回答に多く反応している。「窃盗事件」の理解1「このあと、島根大学の学長は犯人にどのような対応をとったと思うか」に対し、3群と4群とで有意差はみられなかったものの、どちらも1：「懲戒免職」を選んだ割合が高く、「窃盗事件の悪い印象を受ける記事」の方が、「それほど悪くない印象を受ける記事」より多いのであろう。

Table 2 (2) に各群における理解項目（理解2）ごとの人数（人）と%を示す。

Table 2 (2) から、「ねつ造事件」の理解2「犯人はなぜこんなことをしたか」において、0.1%水準で有意差がみられ、1群では、3：「自己満足」、2群では、1：「古生物学者へのしかえし」の回答が多い。これは、「悪い印象を受ける記事」においては、「自己満足」、「好奇心」といった犯人への同情の少ない回答を選び、「それほど悪くない印象を受ける記事」においては、「しかえし」や「いたづら」といった犯人への同情心をかう回答が多いことを意味しているのであろう。「窃盗事件」の理解2「教授の気持ちはどうだったか」において、有意差はみられないものの、3, 4群とも、2：「魔がさしたとしかいいようがなくどうしようもない気持ち」の回答が多い。ということは、どちらの記事にも、同情心がわき起こっているということである。

Table 2 (3) に各群における理解項目（理解3）ごとの人数（人）と%を示す。

Table 2 (3) から、「ねつ造事件」の理解3「犯人の心情」において、0.1%水準で有意差がみられ、1群では、4：「あとに引けなくなって困った」、2群では、1：「だませうれしい」の回答が多い。これは、「悪い印象を受ける記事」において、「あとに引けなくなって困っ

Table 2 (2) 各群における理解項目（理解2）ごとの人数（人）と%

理解2	1				2				3				4				5			
	人数		%		人数		%		人数		%		人数		%		人数		%	
	全体	男子 女子	全体	男子 女子	全体	男子 女子	全体	男子 女子	全体	男子 女子	全体	男子 女子	全体	男子 女子	全体	男子 女子	全体	男子 女子	全体	男子 女子
1群	5	3	2.3	18	9	14.2	7.1	60	23	47.3	18.1	28	12	22.0	9.4	16	11	12.6	8.7	
		2	1.6		9	7.1	37		29.2	16	12.6		5	3.9						
2群	51	23	18.2	28	12	22.2	9.5	34	11	27.0	8.7	12	6	9.6	4.8	1	1	0.8	0.8	
		28	40.4		16	12.7	23		18.3	6	4.8		0	0						
3群	15	6	4.8	88	33	69.9	26.2	9	6	7.1	4.7	12	7	9.5	5.5	2	1	1.6	0.8	
		9	11.9		55	43.7	3		2.4	5	4.0		1	0.8						
4群	19	10	7.9	85	40	67.5	31.8	10	7	7.9	5.5	11	8	8.7	6.3	1	1	0.8	0.8	
		9	15.1		45	35.7	3		2.4	3	2.4		0	0						

- 1, 2群において 1……古生物学者へのしかえし 2……ただのいたずら 3……自己満足
 4……好奇心 5……その他
 3, 4群において 1……今後絶対に悪いことはしないと誓った
 2……魔がさしたとしか言いようがなくどうしようもない気持ち
 3……運が悪かった 4……先のことの方が不安だ 5……その他

Table 2 (3) 各群における理解項目（理解3）ごとの人数（人）と%

理解3	1				2				3				4				5			
	人数		%		人数		%		人数		%		人数		%		人数		%	
	全体	男子 女子	全体	男子 女子	全体	男子 女子	全体	男子 女子	全体	男子 女子	全体	男子 女子	全体	男子 女子	全体	男子 女子	全体	男子 女子	全体	男子 女子
1群	15	10	7.9	8	3	6.3	2.4	36	16	28.4	12.6	56	23	44.1	18.1	12	6	9.4	4.7	
		5	3.9		5	3.9	20		15.8	33	26.0		6	4.7						
2群	49	24	19.1	3	1	2.4	0.8	36	13	28.5	10.3	35	13	27.8	10.3	3	2	2.4	1.6	
		25	19.8		2	1.6	23		18.2	22	17.5		1	0.8						
3群	111	42	33.3	15	11	11.9	8.7	0	0	0.0	0.0	/	/	/	/	/	/	/	/	
		69	88.1		4	3.2	0		0.0											
4群	109	55	43.6	14	9	11.1	7.1	3	2	2.4	1.6	/	/	/	/	/	/	/	/	
		54	86.5		5	4.0	1		0.8											

- 1, 2群において 1……だませてうれしい 2……心が重い 3……自分の腕はすごい
 4……あとにひけなくなって困った 5……その他
 3, 4群において 1……とどける 2……とってしまう 3……その他（放っておく）

た, 「自分の腕はすごい」といったように, なお一層の悪さを感じ, 「それほど悪くない印象を受ける記事」においては, 「だませてうれしい」といったふざけの意味を含んでいるのだろう。

「窃盗事件」の理解3「あなたならどうするか」において, 有意差はみられないものの, 3群の方が, 4群よりも1:「とどける」の回答を多くしている。これは, 「悪い印象を受ける記事」においても, 「それほど悪くない印象を受ける記事」においても, 良心をもっている被

道徳性の発達に関する研究 (2)

験者が多く存在していることを意味し、実践面ではわからないが、少なくとも、理論面では、的を得た人が多いのであろう。

Table 3 (1)(2)(3)(4) に1, 2, 3, 4群の「犯人印象」についての人数(人)と%を示す。

Table 3 ④犯人の印象について
1群

	1 (%)		2 (%)		3 (%)		4 (%)		5 (%)	
①	22	17.5	33	26.2	23	18.3	24	19.0	24	19.0
②	44	34.9	37	29.4	24	19.0	19	15.1	2	1.6
③	23	18.3	16	12.7	23	18.3	45	35.7	19	15.1
④	48	38.1	29	23.0	21	16.7	19	15.1	9	7.1
⑤	8	6.3	29	23.0	22	17.5	38	30.2	29	23.0
⑥	39	31.0	31	24.6	33	26.2	19	15.1	4	3.2
⑦	25	19.8	39	31.0	20	15.9	26	20.6	16	12.7
⑧	52	41.3	32	25.4	22	17.5	15	11.9	5	4.0
⑨	5	4.0	2	1.6	12	9.5	30	23.8	77	61.1

2群

	1 (%)		2 (%)		3 (%)		4 (%)		5 (%)	
①	12	9.5	27	21.4	36	28.6	31	24.6	20	15.9
②	28	22.2	46	36.5	36	28.6	16	12.7	0	0.0
③	25	19.8	21	16.7	23	18.3	38	30.2	19	15.1
④	17	13.5	30	23.8	31	24.6	33	26.2	15	11.9
⑤	5	4.0	21	16.7	26	20.6	49	38.9	25	19.8
⑥	27	21.4	34	27.0	33	26.2	27	21.4	5	4.0
⑦	16	12.7	33	26.2	41	32.5	24	19.0	12	9.5
⑧	30	23.8	39	31.0	33	26.2	19	15.1	5	4.0
⑨	1	0.8	6	4.8	13	10.3	54	42.9	52	41.3

3群

	1 (%)		2 (%)		3 (%)		4 (%)		5 (%)	
①	12	9.5	36	28.6	44	34.9	25	19.8	9	7.1
②	16	12.7	24	19.0	21	16.7	52	41.3	13	10.3
③	53	42.1	36	28.6	18	14.3	13	10.3	6	4.8
④	40	31.7	38	30.2	28	22.2	12	9.5	8	6.3
⑤	2	1.6	12	9.5	26	20.6	49	38.9	37	29.4
⑥	11	8.7	16	12.7	25	19.8	39	31.0	35	27.8
⑦	16	12.7	32	25.4	41	32.5	28	22.2	9	7.1
⑧	12	9.5	22	17.5	31	24.6	48	38.1	13	10.3
⑨	35	27.8	26	20.6	46	36.5	12	9.5	7	5.6

4群

	1 (%)		2 (%)		3 (%)		4 (%)		5 (%)	
①	18	14.3	40	31.7	49	38.9	18	14.3	1	0.8
②	14	11.1	21	16.7	20	15.9	57	45.2	14	11.1
③	59	46.8	36	28.6	23	18.3	5	4.0	3	2.4
④	40	31.7	40	31.7	33	26.2	11	8.7	2	1.6
⑤	4	3.2	11	8.7	19	15.1	66	52.4	26	20.6
⑥	6	4.8	12	9.5	24	19.0	53	42.1	31	24.6
⑦	19	15.1	29	23.0	53	42.1	20	15.9	5	4.0
⑧	11	8.7	20	15.9	36	28.6	44	34.9	15	11.9
⑨	27	21.4	32	25.4	45	35.7	16	12.7	6	4.8

(注) ①ひどい, ②同情的, ③おもしろい, ④暗い, ⑤わるい, ⑥弱い, ⑦ゆるせない,
⑧かわいそうな, ⑨自己満足的な

1:まったくあてはまらない, 2:あまりあてはまらない, 3:どちらともいえない,
4:まあまああてはまる, 5:よくあてはまる

Table 3 (1)(2) から、「ねつ造事件」において、1, 2群とも、「犯人の印象」についてあてはまる項目は、「ひどい」<「わるい」<「自己満足的な」の順に高くなっている。あてはまらない項目は、1群において、「同情的」<「暗い」<「かわいそうな」の順、2群において、「弱い」<「同情的」<「かわいそうな」の順に高くなっている。

Table 3 (3)(4) から、「窃盗事件」において、3, 4群とも、「犯人の印象」についてあてはまる項目は、「わるい」、「弱い」である。

あてはまらない項目は、「自己満足的な」<「暗い」<「おもしろい」の順に高くなっている。

以上より、「ねつ造事件」において、「悪い印象を受ける記事を読む群」の方が、「それほど悪くない印象を受ける記事を読む群」よりも、「理解項目2, 3において悪い結果を予測」する点の仮説(1)は支持される。Table 3 (1)(2)(3)(4) から、ねつ造と窃盗の犯人の印象を比較すると、窃盗の方が、犯人に対する道徳判断は厳しい。ねつ造事件というのは、確かに悪いことではあるが、ちょっとしたいたずら心だったかもしれないということで、許せてしまいそうである。しかし、窃盗事件となるとそうもいかない。たとえ少額であっても、他人のものを盗るというのは許せるものではない。それぞれの価値観によって、道徳判断は左右されるのであろう。よって、仮説(2)は支持される。

Table 4 に各群におけるコールパークの6段階の人数分布を示す。

Table 4 から、どの群も4段階に属する者が半数以上を占めている。次に6段階に属する者が多い。4段階において、有意差はみられないものの、2群(52.4%)<1群(52.8%)と、4群(52.4%)<3群(53.2%)の比較において、道徳判断というものは、「個人がその社会的経験の中から構成するもの」であり、文章の書き方の違いなどによって左右されるものではない。ということが考察される。よって、仮説(3)は、4段階に属するの部分だけ支持される。

一般的傾向として、段階1:6-9歳, 段階2:10-12歳, 段階3:14-24歳, 段階5:24-26歳, とされているが、「段階を飛ばして進む者, あるいは退行を示す者はいない。」ということである。

Table 4 各群におけるコールバーク6段階の人数分布

段階	1 群		2 群		3 群		4 群	
	人数		人数		人数		人数	
	全体	男子 女子	全体	男子 女子	全体	男子 女子	全体	男子 女子
1 段階	10	3	10	4	9	5	10	6
		7		6		4		4
2 段階	9	7	9	2	7	4	10	6
		2		7		3		4
3 段階	7	4	8	6	10	5	7	6
		3		2		5		1
4 段階	67	25	66	24	67	23	66	29
		42		42		44		37
5 段階	6	1	10	4	9	2	7	3
		5		6		7		4
6 段階	26	16	22	13	23	13	25	16
		10		8		10		9
該当なし	2	2	1	0	1	1	1	0
		0		1		0		1

（結論と今後の課題）

本論で明かにされたことは、次の通りである。

- 1) 「ねつ造事件」において、「悪い印象を受ける記事を読む群」の方が、「それほど悪くない印象を受ける記事を読む群」より、「理解2（なぜこんなことをしたのか）と理解3（心情）において悪い結果を予測」している。
- 2) ねつ造よりも窃盗の犯人に対する道徳判断が厳しい。
- 3) 青年期（大学生）は、コールバークの発達段階において、4段階に属する者が多い。
- 4) 道徳判断というものは、「個人がその社会的経験の中から構成するもの」で、文章の書き方の違いなどによって左右されるものではない。
今後の課題として、以下のことを明らかにする。
 - 1) 年齢の発達とコールバークの発達段階の研究から、表面的な判断ではなく、内面的な発達段階の判断を調べる。
 - 2) 文化の違いによるコールバークの発達段階の研究から、果たして、高水準は、自己実現された人格者とみなしてよいのだろうか。
 - 3) 村田（1990）も述べているように、ギリガンによるコールバーク批判の2点、つまり、イ、道徳判断の性差の問題、ロ、コールバークの道徳的ダイレンマが実生活に結び付かない点、をヒントに、次の3点を比較する。すなわち、ア、「個人的達成（仕事）重視」対「人間関係重視」、イ、「仕事の自己同一性」対「人間関係の自己同一性」、ウ、「正義と義務」対「人間の相互の結びつきと交際、相互依存」、エ、「公正さ」対「配慮と責任」、オ、「何が正

しいか」対「他者への共感や同情」

- 4) 村田 (1990) も述べているように、「道德判断の訓練効果」
- 5) 村田 (1990) も述べているように、「道德判断と道德行為」とのあいだの発達的な関係

(参考文献)

佐藤 (1999) の論文に書かれたものを省略する。

藤永保 訳 1983 図説 現代の心理学 講談社

村田孝次 1990 児童発達心理学 培風館

佐藤公代 1999 道德性の発達に関する研究 (1) -文章の違いによる大学生の道德判断について- 愛媛大学教育学部紀要 第1部 教育科学 第46巻 第1号 19-24

(注)

データ整理にかかりました三吉由香氏と被験者の皆様には、大変お世話になりまして、深く感謝致します。